

『多職種による見える事例検討会』 の取り組み

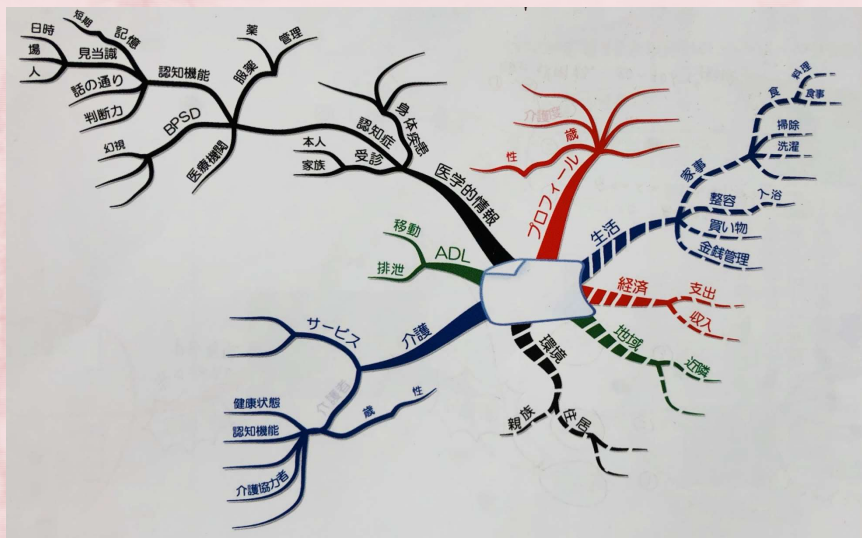
日野町地域包括支援センター
平成31年3月13日

見える事例検討会とは

誰でも参加でき、参加者全員がホワイトボードに書かれた事例検討ツール『見え検マップ』に注目し議論を深めることで、事例提供者及び関係者が“解決のための新しい視点”に気づくことができる事例検討会。進行はファシリテーター養成講座修了者。

多職種連携の場となる。
事例の根幹にある課題や課題同志の関係性を読み解き、課題解決のための支援の方向性を明らかにする。
支援の方向性（いつまでに〇〇をするなどのアクションプラン）は課題解決のためのスモールステップ。

『見え検マップ』とは



事例検討で扱う情報を整理し、検討していくためのツール。
テンプレートに沿ってマッピングしていくことで、事例のイメージが沸きやすく、根底にある課題が見えてくる。支援困難な要因に対して解決の糸口が見えてくる。

3つの目的

課題解決

事例の根底にある課題を明らかにし、支援の方向性を見出す

援助技術の向上

参加している支援者の、包括的視点からの援助技術を高める

ネットワークの構築

実際に地域で動ける多職種による支援者ネットワークを構築する

グラウンド・ルール

Accept All

参加者の、全ての意見、全ての存在を受け入れる

見え検マップに注目

事例検討中は、ホワイトボードに注目する

全員参加

参加者全員で事例検討を行う

プライバシーを守ること
も忘れずに

特徴

- ①事例の配布資料なし
▶事例提供者の準備・負担が少ない！
- ②見え検マップで見える化
▶事例の全体や根底にあるものが見えてくる！
- ③ファシリテーターは2人（聞き手・書き手）プラス1（見え検マップ）
▶ファシリテーターも楽にできて、みんなで考える雰囲気ができる！
- ④事例提供はインタビュー形式
▶新しい視点が生まれやすく意見がでやすい！
- ⑤事例に関わっていない人も参加
▶新しい視点が生まれ、事例の解決に結びつきやすい！

見える事例検討会をやってみると

支援困難事例の検討会 ▶ 関わっている支援者たちが同じ視点や
同じ思考にとらわれて抜け出せない。
どうやったらこの問題は解決できるの？問題ばかり見ている状況



見える事例検討会 ▶ 見え検マップで事例を見える化する。
見える化で、課題同士の関連性が見え、
解決に向けた新しい視点に気づく。

明らかになった支援の方向性！やってみようと事例が動く！

日野町の取り組み

多職種連携 × 顔の見える関係づくり



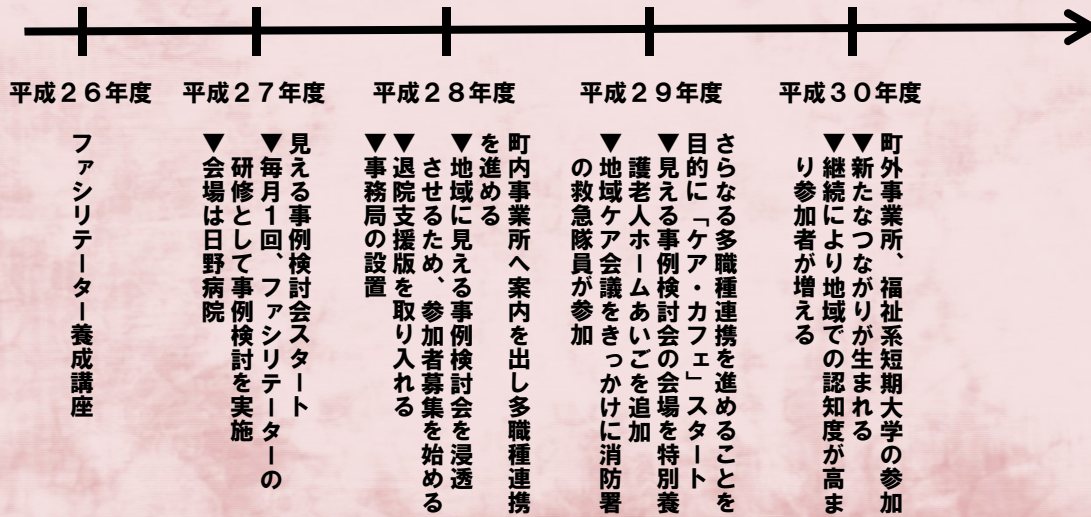
多職種による
見える事例検討会

多職種による
見える事例検討会
“退院支援版”

ケア・カフェ

ファシリテーターで「多職種連携推進協議会」を設立
見える事例検討会の主催、企画、運営

日野町の取り組み



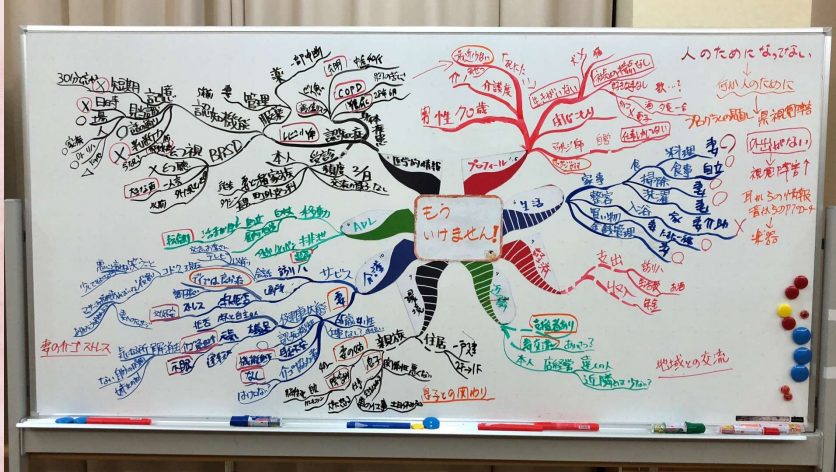
日野町の取り組み



見える事例検討会の様子

- ・ ホワイトボードに参加者が注目！しっかり見え検マップに情報が書き込まれている。
- ・ ファシリテーター2人（聞き手・書き手）と事例提供者1人

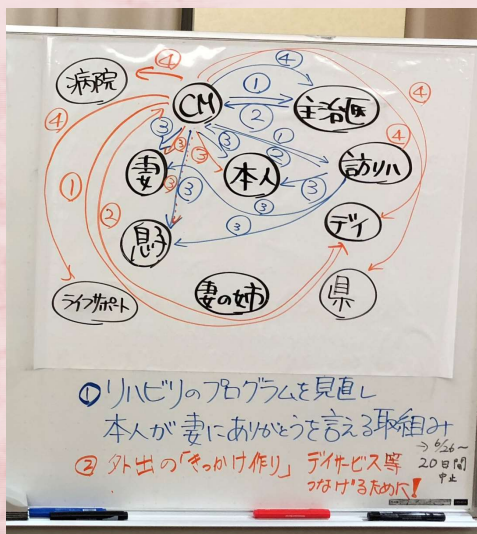
日野町の取り組み



検討会終了後の見え検マップ

- ・ 本人、支援者の強み、課題等を見える化。

日野町の取り組み



アクションプランの完成

- ・ 見え検マップで見える化された課題や支援の方向性から実際にできそうなアクションプランを参加者全員で確認する。
- ・ 事例提供者に提案する。

日野町の取り組み



実際に退院に向け、誰が何をするのか共有する。
主治医、リハビリ、薬局、栄養など院内の取り組みから、
在宅で受け入れる側への引き継ぎが行われる。

【紹介】
退院支援版の様子
・退院できない事例
調整が必要な事例
・院内で関わる多職
種はもちろんのこと、在宅サービス
関係者等が退院に
向けた検討を行う。

日野町の取り組み



【紹介】
ケア・カフェの様子
・医療・介護・福祉の
多職種が「顔の見える
関係づくり」と
「日頃の相談ごと」
を話し合う場。
・つながった人が実際の
ケアの場でもつな
がる。

日野町の取り組み

ファシリテーター 13人
(進行役の聞き手と情報を記載する書き手)

【職種】

- ・医師（1人） ・看護師（2人） ・薬剤師（1人）
- ・社会福祉士（1人） ・理学療法士（1人）
- ・保健師（1人） ・介護福祉士（1人）
- ・介護支援専門員（5人）

日野町の取り組み

参加事業所

- ・鳥取大学医学部地域医療学講座
- ・日野病院（診療局、看護局、地域連携推進室、リハビリテーション室、薬剤管理室、栄養管理室、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所）
- ・日翔会（居宅介護支援事業所、通所介護、通所リハビリ、訪問介護、老人保健施設、老人福祉施設）
- ・尚仁福祉会（居宅介護支援事業所）
- ・新見公立短期大学
- ・江府消防署
- ・日野町役場健康福祉課、地域包括支援センター

日野町の取り組み

事務局

行政主導ではなく、町内各事業所から事務局員として運営に参画

>参加事業所目線に立った事例検討会の開催

町内の事業所がみんなでみんなのために開催

「参加してよかったな」という事例検討会にしたい！

>持続可能な事例検討会

【業務】

・運営全体について検討（日程、会場、ファシリテーター順等）

・事例提供先との調整

・各事業所内でのチラシの配布と参加者取りまとめ

*運営の便宜上、事務局は地域包括支援センターに置いている。

日野町の取り組み

平成30年度の実施状況

>見える事例検討会（4回）

>見える事例検討会“退院支援版”（4回）

>ケア・カフェ（3回）

>振り返り・次年度の検討（1回）

見える事例検討会→退院支援版→ケア・カフェの順で月1回開催

日野町の取り組み

まとめ

- ＞高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を支えるために、在宅医療、介護、福祉等、多職種の協働が重要。
- ＞多職種連携＝顔の見える関係づくりを目的に開催・継続。多職種が互いの専門性を知ることができ、連携が深まり、日頃の業務に生かすことができている。
- ＞参加事業所等からは「つながり」ができたと評価
- ＞事例提供者がアクションプランを受けて、どう事例が動き、解決したのか、再検討が必要なのか評価し、引き続き、事例提供者を支援していく。